

医学教育分野別評価 長崎大学医学部医学科 年次報告書

2020 年度

医学教育分野別評価の受審 2017（平成 29）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.11

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.32

はじめに

本学医学部医学科は、2017 年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2018 年 9 月 1 日より 7 年間の認証期間が開始した。

受審時には基本的水準 12 項目、質的向上のための水準 10 項目が部分的適合となった。2019 年度には行動科学の体系化や、専門教育科目での水平統合の推進、臨床実習評価などの改善点を報告した。

医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.32 を踏まえ、2020 年度の年次報告書を提出する。

なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2019 年度 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日を対象としている。また、重要な改訂があった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.32 の転記は省略した。

2. 教育プログラム

領域 2.4 基本的水準における「改善のための助言」を受け、行動科学について体系的に教育するため教育責任者をおいた。行動科学は 1 年次から 4 年次まで連続して実施する予定であり、各学年に応じた学修成果が得られたかが今後の課題といえる。

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための助言

- 行動科学に該当する教育は行われているが、体系的に行うための教育責任者を定め、統

合的にプログラムを企画し、実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 2019 年度より「医と社会」において、行動科学を体系的に教育するため行動科学分野責任者を決定し、医学科授業計画（シラバス）に明記した。行動科学としての授業を、1 年次 4 コマ、2 年次 2 コマ、3 年次 3 コマの合計 9 コマ実施した。（資料 01）来年度以降は、講義一覧で 1 年次生から 3 年次生まで連続した講義内容を明示し、初回に全体を通した受講内容の説明を行う時間を設ける予定である。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 01 令和元年度医学科授業計画 医と社会Ⅰ～Ⅲ_該当講義抜粋

3. 学生の評価

領域 3.1 基本的水準における「改善のための助言」を受け、臨床実習の評価基準を各診療科で統一するため、ディプロマ・ポリシーに沿った評価を LACS（Learning Assessment and Communication System）上で 2019 年度より開始した。評価内容が知識、技能および態度を確実に評価するものかを検討していく必要がある。

3.1 評価方法

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- 基礎医学および臨床医学 TBL で多角的な評価方法を導入し、リサーチセミナー（基礎医学研究実習）では学生全員が参加するリサーチセミナー発表会を開催していることは評価できる。

改善のための助言

- 再試験の回数を規定すべきである。
- 臨床実習の評価基準を各診療科で統一して明示し、知識、技能および態度を確実に評価すべきである。
- Mini-CEX、ポートフォリオをさらに活用すべきである。
- 学生の評価について、学部の専門家によって吟味されるべきである。

関連する教育活動改善内容や今後の計画

- 再試験の回数は 3 回以内と規定して運用しており、2019 年度提出の年次報告書において報告済みである。

- 臨床実習の評価は、ディプロマ・ポリシーに沿った評価票を評価基準と定め、臨床実習の評価を行った。（資料 02）また、その成績評価の分布や評価項目毎の評価傾向についても分析を実施した（資料 03）（資料 04）

改善状況を示す根拠資料

- 資料 02 臨床実習評価票
- 資料 03 2019 年度臨床実習成績 各科成績評価分布表（部外秘）
- 資料 04 2019 年度臨床実習成績 評価項目毎の得点平均値（部外秘箇所を除く）

5. 教員

領域 5.2 における「改善のための助言」を受け、まずは教員活動やカリキュラム理解の現状把握のため、各教室の教育実務担当者対象に教員アンケートを行った。個々の教員が担当講義だけでなく、カリキュラム全体への理解を深めることが今後の課題といえる。また、アンケート対象者の拡大、結果の蓄積が必要である。

5.1 募集と選抜方針

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための助言

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 日本語注釈に記載されている「教員の男女間のバランスの配慮」に関して、女性教員の比率向上を推進するため、女性教員の比率向上に向けた教員選考に関する要項を定めたほか、女性教員を採用した教室に対し、インセンティブとして採用年度にスタートアップ経費を配分している。（資料 05）（資料 06）生命医科学域（医学系）教員における女性教員の占める割合は、分野別評価を受けた 2017 年度は 9.8%だったが、2019 年度には 12.8%へ上昇している。（資料 07）引き続き女性教員の比率向上を推進していく。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 05 長崎大学における女性教員の比率向上及び上位職登用に向けた教員選考に関する要項
- 資料 06 「長崎大学におけるダイバーシティ推進の基本方針」に基づく行動計画

および数値目標（部外秘）

- 資料 07 2017 年度～2019 年度 生命医科学域（医学系）教員男女比推移

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準

医学教育分野別評価基準日本版の改定があり、Ver.2.32 の内容は以下のとおりである。

医学部は、

- 教員の活動と能力開発に関する方針を策定して履行しなければならない。その方針には下記が含まれる。
 - 教育、研究、診療の職務感のバランスを考慮する。（B 5.2.1）
 - 教育、研究、診療の活動における学術的業績の認識を行う。（B 5.2.2）
 - 診療と研究の活動が教育活動に活用されている。（B 5.2.3）
 - 個々の教員はカリキュラム全体を十分に理解しなければならない。（B 5.2.4）
 - 教員の研修、能力開発、支援、評価が含まれている。（B 5.2.5）

特記すべき良い点（特色）

- 教育、研究、臨床（診療）の活動についての教員の業績を評価基礎データベースで把握し、教員の評価に活用していることは評価できる。
- 医学部研究高度化支援室（MEDURA）を設置し、研究者支援を行っている。

改善のための助言

- 教育、研究、臨床（診療）のバランスについて定期的にモニタし、適正なバランスに保つべきである。
- 評価基礎データベースを用いて、教員が臨床との研究の活動を教育活動にどの程度活用しているかをモニタすべきである。
- 評価基礎のデータベースを用いて、教員が臨床と研究の活動を教育活動にどの程度活用しているかをモニタすべきである。
- カリキュラム全体を教員が把握しているかどうかをモニタすべきである。
- 教員研修に関する FD を医学部として組織的に開催し、受講を促すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 各教員の活動状況の把握について、長崎大学評価基礎データベースによるモニタから、「事務局保有の実績データ」「researchmap 登録データ」及び「自己申告データ」の 3 点を基礎データとする方法へと 2019 年度から変更した。これは、全国的・統一的な視点で各教員の活動状況を把握するためで、6 つの活動分野（教育、研究、国際化、地域社

会貢献、外部資金、大学運営）を設け、分析を行うとともにポイント化による可視化に取り組んでいる。（資料 08～10）

- 各教員が臨床と研究の活動を教育活動にどの程度活用しているかをモニタするため、教育実務担当者を対象とした教員アンケートを 2019 年度に初めて実施し、臨床または研究の活動を教育活動に活用しているかを調査した。75%が“やや活用している”または“よく活用している”と回答している。その他にもアクティブラーニングを取り入れているか等、教育方法についての設問で現状を調査した。（資料 11）
- カリキュラム全体を教員がどの程度把握しているかをモニタするため、2019 年度実施の教員アンケートにて調査を行った。アンケートの回答率は 70.6%（48 名/ 68 名）であり、ほとんどの教員が各自の担当講義のみの把握に留まっており、全体を理解しているのは僅か 8.3%であることが明らかになった。（資料 11）今後、新任教員ガイダンス等で周知を行っていく予定である。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 08 令和元年度 教員活動状況分析について（依頼）
- 資料 09 令和元年度 教員活動状況分析 概要
- 資料 10 令和元年度 教員活動状況分析 分析項目
- 資料 11 2019 年度教員アンケート（部外秘箇所を除く）

6. 教育資源

領域 6.3 における「改善のための助言」を受け、6 年生対象の教育資源に関するアンケート結果を元に、学内の wi-fi 環境を調査した。Wi-fi 環境が安定しない場所は原因検索とその解決を行った。今後も継続して調査と環境調整が必要である。

6.3 情報通信技術

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- 教育プログラムに主体的学修促進支援システム（LACS）やポートフォリオシステムを活用していることは評価できる。

改善のための助言

- 講義室における Wi-Fi 環境を改善すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- Wi-Fi 接続環境を含めた教育資源に関するアンケート調査を 6 年次生に実施し、Wi-Fi 接続環境の現状を調査した。接続環境が悪いとの意見があった施設・講義室それぞれの原因を突き止め、工事等の対応を実施した。(資料 12)(資料 13) 今後も継続した状況調査を行っていく予定である。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 12 6 年次生対象 教育資源に対するアンケート調査結果(部外秘箇所を除く)
- 資料 13 学生アンケートで改善が必要との指摘があった Wi-Fi 接続環境に関する調査結果

7. 教育プログラム評価

領域 7.1 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、IR 活動の充実を図り、学生評価の経年的解析やディプロマ・ポリシーに即した学修成果の評価解析を行った。また領域 7.2 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、教員アンケートを開始した。実施した評価・モニタの結果を教育プログラム改善へ反映させる体制を構築すること、継続したモニタリングと卒業生の解析が今後の課題と言える。

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準

医学教育分野別評価基準日本版の改定があり、Ver.2.32 の内容は以下のとおりである。

医学部は、

- カリキュラムの教育課程と学修成果を定期的にモニタするプログラムを設けなければならない。(B 7.1.1)
- 以下の事項について教育プログラムを評価する仕組みを確立し、実施しなければならない。
 - カリキュラムとその主な構成要素 (B 7.1.2)
 - 学生の進歩 (B 7.1.3)
 - 課題の特定と対応 (B 7.1.4)
- 評価の結果をカリキュラムに確実に反映しなければならない。(B 7.1.5)

特記すべき良い点(特色)

- 2015 年度に医学部 IR 室を設置し、活動を開始している。
- 2017 年度にカリキュラム評価委員会を設置し、学生が正式な委員として参加している。

改善のための助言

- 医学部 IR 室において学生評価の解析を経年的に行うことにより、教育プログラムの改善に反映させる体制および運用を確立すべきである。
- ディプロマ・ポリシーと関連した学修成果の評価が、教育プログラムの改善に反映されるようにカリキュラム評価委員会が機能すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 医学部 IR 室において経年的に行う学生評価の解析として、前年度卒業生の「教育プログラム総括」の作成を開始した。この教育プログラム総括では、入学時の学生の情報分析（男女比、出身校内訳、入学試験成績分布等）、適用カリキュラムの概要、進級・留年状況、科目成績評価分布表、共用試験 CBT 成績と卒業試験成績との相関・国家試験結果、初期研修先の傾向、入試枠毎の進級・進路状況分析等をまとめている。（資料 14）
その他にも研究に関するプログラムの評価の一貫として、3 年次生開講のリサーチセミナーに関するアンケートの実施を開始した。（資料 15）
これらの分析結果は、医学部長、先端医育センター長、事務関係者も出席する医学部 IR 室ミーティングにて報告している。（資料 16）（資料 17）
- ディプロマ・ポリシーと関連した学修成果を評価するため、臨床実習の評価票をディプロマ・ポリシーに基づいたものとした。（資料 02）2019 年度成績結果について、成績評価分布表と評価項目毎の平均点を解析した。（資料 03）（資料 04）（資料 16）
- 教育プログラム改善のため、教員アンケートを通じて長崎大学の医学教育やカリキュラムに関する意見を収集した。また、学生評価の方法に関して、試験問題の適性を検討しているかどうかの調査も行った。（資料 11）
- 本学医学部教育が、厚生労働省発表の平成 30 年版医師国家試験出題基準の出題範囲を漏れなく教育しているか全講座を対象に調査を行った。（資料 18）（資料 19）この調査結果をもとに、不足していることが判明し、教育すべきと考えられる内容に関しては新たに講義や実習内で教育することを依頼し、来年度以降順次改善予定である（資料 20）。特に不足していたリハビリテーションの分野については、短期的には「医と社」の中でコマ数を増やすことで対応し、長期的にはリハビリテーション科目の作成を目指すこととなった。同様に救命救急センターも長期的に新授業科目設立を目指している。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 02 臨床実習評価票
- 資料 03 2019 年度臨床実習成績 各科成績評価分布表
- 資料 04 2019 年度臨床実習成績 評価項目毎の得点平均値
- 資料 11 2019 年度教員アンケート（自由記載欄は部外秘）
- 資料 14 2013 年度カリキュラム生 通常進級生の 6 年間総括

- 資料 15 リサーチセミナーに関するアンケート結果
- 資料 16 2019 年度第 5 回医学部 IR 室ミーティング議題
- 資料 17 2019 年度第 7 回医学部 IR 室ミーティング議題
- 資料 18 医師国家試験出題基準に関する調査依頼
- 資料 19 医師国家試験出題基準 調査結果（一部抜粋）
- 資料 20 医師国家試験出題基準 調査結果を受けて

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための示唆

- IR 活動を充実させ、教育活動とそれが置かれた状況、カリキュラムの特定の構成要素、長期間で獲得される学修成果、社会的責任についてのデータ集積と解析が望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 教育活動とそれが置かれた状況について調査するため、教員アンケートを実施した。臨床実習の医療面接・身体診察の実施状況や、基礎系学生実習の負担とやりがい等、現在の状況について調査を行っている。（資料 11）

改善状況を示す根拠資料

- 資料 11 2019 年度教員アンケート（自由記載欄は部外秘）

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための助言

- 教育プログラムに対する教員と学生からの意見を系統的に集め、分析し対応すべきである。削除

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 学生からの意見を集めるため、研究教育プログラムに対しては 3 年次生開講のリサーチセミナーに関するアンケートを開始した。（資料 15）教員からは、教員アンケートで長崎大学の医学教育やカリキュラムに関して自由記載欄を設けて意見を収集した。（資

料 11)

改善状況を示す根拠資料

- 資料 11 2019 年度教員アンケート（部外秘箇所を除く）
- 資料 15 リサーチセミナーに関するアンケート結果

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- 卒業生に教育資源に対するアンケートを行っている。

改善のための助言

- 医学部医学科のディプロマ・ポリシーを評価の観点に、学生の実績を分析すべきである。
- 学生のみならず、卒業生の実績についても解析し、教育プログラムの改善に反映させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 6 年次生を対象とした教育資源に対するアンケートでは、より多くの学生から回答を得るために実施時期を変更して実施し、90%以上の回答率を得た。（資料 12）
- 臨床実習の評価基準をディプロマ・ポリシーに基づいたものとし学生の評価を行った。（資料 02）2019 年度成績結果について、成績評価分布表と評価項目毎の平均点を解析した。（資料 03）（資料 04）（資料 17）
- 卒業生の実績解析の一環として、各推薦卒の卒業生が入学時に求められた要件（長崎県内での初期研修や大学院進学等）に沿っているかという観点で卒業生調査を行い、卒後進路指導委員会委員長に報告を行った。（資料 21）大学院進学に関しては、まだ卒後年数が期限に至っていない推薦卒も多いため、引き続き調査を継続していく。
- 今後卒業生調査を充実させていくため、卒後の勤務先情報に関する同窓会情報を使用することについての同意取得を開始した。当初は卒業式で同意書を取得する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のために卒業式が中止となったため、オプトアウト方式で各卒業生へ同窓会情報使用に関する書類を送付した。（資料 22）

改善状況を示す根拠資料

- 資料 17 2019 年度第 5 回医学部 IR 室ミーティング議題
- 資料 02 臨床実習評価票

- 資料 03 2019 年度臨床実習成績 各科成績評価分布表
- 資料 04 2019 年度臨床実習成績 評価項目毎の得点平均値
- 資料 12 6 年次生対象 教育資源に対するアンケート調査結果
- 資料 21 推薦枠別 進路・大学院進学状況調査結果 2019 年度（部外秘）
- 資料 22 同窓会情報使用に関して

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための示唆

- 学生と卒業生の実績を背景と状況、入学時成績の観点で、今後、分析することが望まれる。
- 学生の実績を分析し、入試委員会、教務委員会、学生委員会に情報を提供することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 入学時成績の観点で学生の実績を分析するため、大学入試センター試験と卒業時成績（総ポイント）との相関を、2016 年度-2018 年度の過去 3 年分調査した。（資料 23）
- 教務委員会委員長、入試委員会委員長、進路指導委員長から依頼され調査・分析結果を提供する機会があった。今後はより体系的に情報提供の流れを構築していく必要がある。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 21 推薦枠別 進路・大学院進学状況調査結果 2019 年度（部外秘）
- 資料 23 入試－卒業時成績相関調査結果（2016 年度～2018 年度卒業生）